

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

申請日: 令和6年10月10日

| | | | | | |
|-----------------------|--|--------------|----------------------|------------|--------------|
| ①学校名: | 東京藝術大学 | ②所在地: | 東京都台東区上野公園12-8 | | |
| ③課程名: | Diversity on the Arts Project | | | | |
| ④正規課程/ 履修証明プログラム: | 履修証明プログラム | ⑤定員: | 120名 | ⑥期間: | 1年間 |
| ⑦責任者: | 東京藝術大学長 日比野克彦 | | ⑧開設年月日: | 平成29年4月1日 | |
| ⑨申請する課程 の目的・概要: | Diversity on the Arts Project は「福祉×アート」をテーマに「多様な人々が共生できる社会」を支える人材を育成するプロジェクトである。ひとりひとりの多様な「あり方」の違いを超えて、人と人が丁寧に会うことで生まれるクリエイティブな視点や振る舞いが、社会に積み重なっていくこと、そして、当プログラムを修了したひとりひとりが、より多様性のある社会を創出し、また、社会に潜在する共生社会の種を見出していくことを目的としている。当プログラムでは、ケアとアートに関する知識を必修授業で学修し、選択授業内でフィールドワークやグループワークを実施することにより、クリエイティブな視点の習得や、現場力、実践力の能力を得ることを目指す。社会との関わりを考えながら、現代の医療や介護をより広い視野で捉えなおす専門家として現代社会において活躍するために必要な能力を修得する。 | | | | |
| ⑩10テーマへの 該当 | 1 女性活躍 | 3 中小企業活性化 | 5 環境保全 | 7 医療介護 | 9 起業 |
| | 2 地方創生 | 4 DX | 6 就労支援 | 8 ビジネス等 | 10 防災危機管理 |
| ⑪履修資格: | <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校卒業以上の学歴を有する者 ・前項と同等以上の学力があると大学が認めた者 ※外国人志願者は、授業履修に支障のない日本語能力が必要である | | | | |
| ⑫対象とする職 業の種類: | 福祉関係者(社会福祉施設管理者、福祉相談・指導専門員、老人福祉施設指導専門員、介護支援専門員(ケアマネジャー)など)、医療従事者(医師、保健師、看護師など)、アートや表現活動を行っている者(アーティスト、デザイナー、その他の文化芸術等の専門的職業など) | | | | |
| ⑬身に付けること のできる能力: | (身に付けられる知識、技術、技能) | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ダイバーシティ(多様性)や福祉に関する知識の獲得 ・福祉に関する基礎的かつ実践的な理論を学ぶ(看護や介護論) ・SDGsへの理解力 | | | | |
| ⑭教育課程: | (得られる能力) | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション力、思考力、資料作成力 ・プレゼンシートを作成する力 ・地域社会の諸問題についてグループワークで解決するファシリテーション力 | | | | |
| ⑮修了要件(修 了授業時数等): | <ul style="list-style-type: none"> ・必修授業(ダイバーシティ実践論、ケア原論)の半分以上の時間数取得 ・60時間以上の時間数取得 | | | | |
| ⑯修了時に付与さ れる学位・資格等: | 履修証明書の付与・修了レポートの提出及び審査の合格 | | | | |
| ⑰総授業時数: | 222 | 時間 | ⑱要件該当 授業時数: | 222 | 時間 |
| | | | ⑲要件該当授業時数 ／総授業時数: | 100 | % |
| ⑳該当要件 | 企業等 | ○ | 双方向 | ○ | 実務家 |
| | | | | ○ | 実地 |

| | |
|--------------------|--|
| ⑩成績評価の方法: | 講義・演習は授業への参加状況、グループワーク・プレゼンテーションにおける観察評価、レポートによって評価する。 |
| ⑪自己点検・評価の方法: | 来年度より、学校教育法第 109 条第 1 項に定める評価を実施予定とする。併せて連携企業および、授業を担当した講師からヒヤリング調査を実施することにより、課程の自己点検・評価に企業等の意見を取り入れ、課程に反映させていく。課程の自己点検・評価については本学 HP にて公表する。 |
| ⑫修了者の状況に係る効果検証の方法: | 修了者に対し、修了の際に聞き取り調査などを実施し、その結果を現場にフィードバックすることにより本プログラムの課程の効果を検証する。当プログラムの修了生が自発的に結成している組織(NEXT DOOR)があり、その後の受講生の活動を把握し、授業効果がその後の活動にどう影響しているかということを定性的に判断している。 |
| ⑬企業等の意見を取り入れる仕組み: | (教育課程の編成) 毎年度終わりに、列記した連携企業や授業の講師等を対象に当プログラムについて振り返る機会を設け、教育課程の編成や方向性に企業や現場の意見を取り入れ、外部意見についてプログラムに反映させていく。 |
| | (自己点検・評価) ①本課程を担当する教員と授業を連携して行なっているSOMPOケア株式会社や、日本サッカー協会との意見交換(ヒヤリング調査)の実施、②各授業の非常勤講師及びゲスト講師を含めた教員の定例会議において、昨年度の振り返りや来年度への意見についてヒヤリング調査を実施、③ ①、②での意見を集約のうえ、本課程の自己点検・評価を行い、その中で、外部意見を当プログラムの改善に反映させていく。本課程の自己点検・評価は、本課程の開設部局である芸術未来研究場運営委員会において行う。 |
| ⑭社会人が受講しやすい工夫: | 授業の開催は平日の夜間や土日開催を中心としている。また必修授業はZoomのオンライン形式で全国各地から受講生が授業を受けることが可能な形式を整えている。また、様々な職業の人と幅広く出会える環境によって、受講生にモチベーションを高める機会をつくっている。 |
| ⑮ホームページ: | https://door.geidai.ac.jp/ |